



だっこするよ

令和4年10月

社会福祉法人茂原高師保育園

北区立赤羽台保育園

園長 奥戸 昌子

子どもたちの心が躍動する運動会へ
対話から生まれる意欲

金木犀の香りが心地よく街を包み始めてきましたね。空が高く、秋風もさわやかです。公園探検から帰るとお散歩バックにどんぐりがぎっちり、嬉しそうに見せてくれます。みんなの瞳がキラキラと輝いています。この秋も“自然と共に”自分の足で歩いて歩いて健康づくりをしていきます。

10月22日は、運動会です。毎日の遊びと生活を大切にしながらそれぞれの年齢に応じた取り組みが行われています。今年も年長組の皆で、運動会について話し合いをしました。運動会をするか、しないか、から決めます。主人公は、いつも子どもたち、その子どもたち一人ひとりのやりたいという思いがあってこそ主体的な取り組みへとつながっていきます。子どもたちを頑張らせるのではなく、自分たちのやりたいことを実現する運動会です。

対話をする子どもたちの中で運動会のねらいが何なのか鮮明になってきます。地図が出来る感じ。一人ひとりが自分の力を試したい、そして協力してやり遂げたい…とこれまでの経験から感じたことを語り始めます。「それはどうしてそう思うの?」「どんな風に感じたの?」と尋ねれば尋ねるほどに、自分や皆の気持ちが言葉になって、やがて、合意へ。スローガン「最後まで本気で頑張る、みんなが幸せな運動会」が決定しました。この対話は、大人からの呼びかけで始まりましたが、子どもから子どもへ、子どもから大人へと共感が広がっていきました。一人ひとりの思いを聞き合う、伝え合うことで集団が成長していくのだと感じます。

そして、子ども同士の人間関係が深まっていくと普段生活でも協同的な学び、助け合いへと繋がる姿が見られます。この体験は、就学に向けてとても大きな力になります。

先日、年長組のリレーを見る事が出来ました。全員が必死で走り、必死でクラスのバトンをつなぎ、必死で応援して、途中、転んでも直ぐに立ち上がり走り続ける…緊迫感が伝わってきます。勝敗がついて、負けたチームの涙…それぞれの心が揺さぶられています。この悔しさ、喜びが、きっと大きな心のバネになることでしょう。おやつ後のスローガンの看板作りも、子どもたちがどんどん描き上げて完成しました。「主体的で対話的で深い学び」とは、これだと思いました。異年齢でも同年齢であっても子どもと子どもが、子どもと大人が対等に話し合える場をつくり、誰もが主人公になる保育をしていきたいと思えます。対話で互いに聞く、そして、互いに話すことは、あなたのことを大切にするよという愛情ですね。子どもたちの意見表明は、子どもの権利条約12条に定められている権利です。ご紹介します。

「はじめまして 子どもの権利条約」 監修川名はつ子氏 東海教育研究所発行からの引用

すべての子どもは大人とおなじように社会をつくっている一員であり、大切に尊く、「誰も奪うことの出来ない人間としての権利」を持っていると認めることが、世界の自由や平和の基礎になっていると考えています…

12条「子どもが自由に自分の意見を言える権利」

・子どもが自分に関わることすべてについて、自由に思いや考えを表わすことを認めます。子どもの意見や考えは、子どもの年齢や成長に配慮しながら大切に扱われます。

親子で対話しましょう。ひよこ組さんも話したくてうずうずしています。子どもたちにいろんな質問すると、よく考えて言葉を見つけて、教えてくれます。言語はスピリッツだと思います。なぞなぞやしりとりも楽しそうです。温かな言葉のシャワーをかけてあげましょう。写真は、5歳児、燃える背中です!